

マンガ文化論Ⅰ

科目ナンバリング ARL-101

選択 2単位

萩原 由加里

1. 授業の概要(ねらい)

現代の日本マンガの基礎を築いた作品を毎回取り上げていくことで、なぜマンガが文化と呼ばれるレベルに至ったのかを考えていきます。図版や時には映像を交えながら授業を進めていきます。

2. 授業の到達目標

- 1、マンガを単なる趣味ではなく、学術的な手段を用いて分析する能力を身につける。
- 2、作家の生い立ちや時代背景を踏まえることで、作品単体の分析では見えてこない、新たな読解力を身につける。

3. 成績評価の方法および基準

試験60%、平常点(小レポート)40%

4. 教科書・参考文献

教科書

教科書:なし

参考文献

竹内オサム・西原麻里編著 『マンガ文化55のキーワード』(2016) ミネルヴァ書房

5. 準備学修の内容

毎回の授業で、次回に取り上げる作者と作品を紹介するので、その作者が活躍した時代の社会的・政治的な出来事を図書館やネットを使って調べ、時代背景を把握したうえで授業に臨むこと。

6. その他履修上の注意事項

積極的な質問を期待します。受講者の興味にあわせて取り上げる作品を変更することもあります。

7. 授業内容

- 【第1回】 マンガ文化とは?
- 【第2回】 手塚治虫1 『新宝島』に見る映画的なもの
- 【第3回】 手塚治虫2 科学への警鐘としての『メトロポリス』
- 【第4回】 手塚治虫3 『アトム大使』から『鉄腕アトム』へ
- 【第5回】 手塚治虫4 命とは何か?—『火の鳥』
- 【第6回】 手塚治虫5 命とは何か?—『ブラックジャック』
- 【第7回】 石ノ森章太郎 一師を超えた存在
- 【第8回】 海外との比較 —アメリカのコミック
- 【第9回】 赤塚不二夫 —ギャグマンガ
- 【第10回】 赤塚不二夫 —少女マンガ
- 【第11回】 藤子F不二雄
- 【第12回】 藤子不二雄A
- 【第13回】 水木しげる
- 【第14回】 松本零士
- 【第15回】 マンガ文化の奥深さ